

項目	説明	
試料・情報の 利用目的 及び 利用方法	研究課題名	当院におけるサルプレップ®の使用例の検討
	研究対象者	2023年8月～2024年3月までの期間で当院でサルプレップ®を用いた腸管洗浄後、全大腸内視鏡検査を行った患者さん
	研究目的	一般の方に分かりやすいように200～300文字程度を目安に記載して下さい。 サルプレップ®は大腸内視鏡用の比較的新規の腸管洗浄液であり、服薬量が少ないことや腸管洗浄効果が高いことから、有益性が高いことが期待されています。その一方で、保険承認され間もないことから、実臨床での有効性・安全性については十分なデータがありません。当院では2023年8月からサルプレップ®を導入しており、院内でのサルプレップ®の実臨床でのデータを解析し有効性・安全性を評価することを本研究の目的としました。
	研究方法	対象患者さんの電子カルテから必要な情報を収集しデータを解析します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西暦 2024 年 5 月 8 日～西暦 2025 年 12 月 31 日
	利用又は提供を開始する時期	[<input checked="" type="checkbox"/>]総長が研究実施を許可した日 [<input type="checkbox"/>]西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	[<input type="checkbox"/>]試料:	[<input type="checkbox"/>]血漿、[<input type="checkbox"/>]血清、[<input type="checkbox"/>]全血、[<input type="checkbox"/>]末梢血から抽出したDNA、 [<input type="checkbox"/>]病理検体(具体的に記載: _____)、 [<input type="checkbox"/>]尿、[<input type="checkbox"/>]糞便、[<input type="checkbox"/>]唾液、[<input type="checkbox"/>]胸水、[<input type="checkbox"/>]腹水、[<input type="checkbox"/>]脳脊髄液、 [<input type="checkbox"/>]毛髪、[<input type="checkbox"/>]その他(具体的に記載: _____)
	[<input checked="" type="checkbox"/>]情報:	[<input checked="" type="checkbox"/>]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[<input checked="" type="checkbox"/>]年齢、[<input type="checkbox"/>]生年月日、 [<input checked="" type="checkbox"/>]性別、[<input checked="" type="checkbox"/>]既往歴、[<input checked="" type="checkbox"/>]併存疾患、[<input checked="" type="checkbox"/>]外来日・入院日・退院日、[<input checked="" type="checkbox"/>]臨床検査値、[<input checked="" type="checkbox"/>]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、 [<input checked="" type="checkbox"/>]臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[<input type="checkbox"/>]ゲノムデータ、[<input checked="" type="checkbox"/>]看護記録、[<input type="checkbox"/>]その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 消化器内科・消化管 古田 光寛
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
	外国へ提供する場合	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	神奈川県立がんセンター消化器内科 古田光寛 045-520-2222 利用停止のお申し出は2024年05月31日までにお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	